

北九州市営バス事業あり方・役割検討会議

(第2回)資料集



令和6年12月12日
北九州市交通局

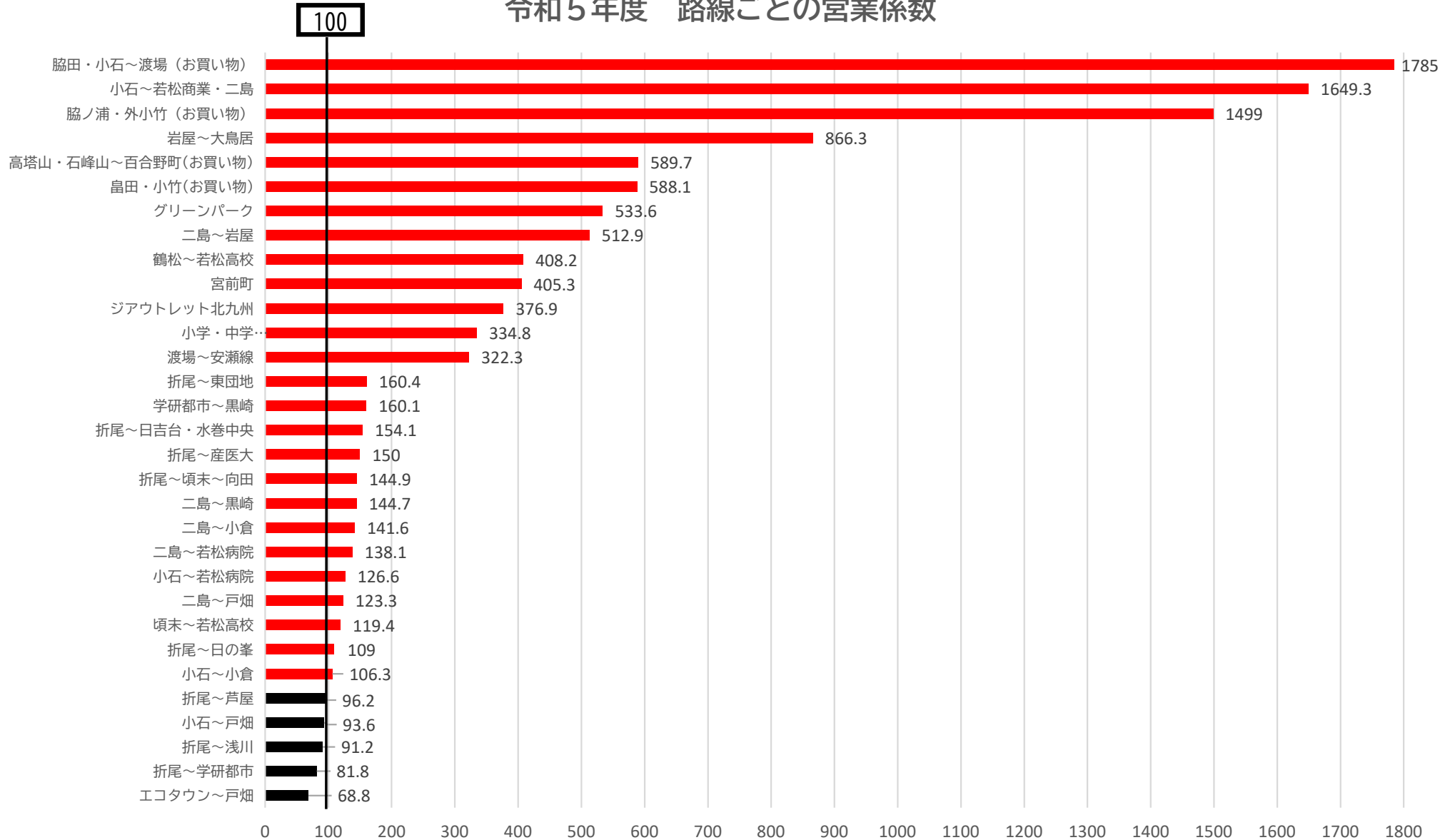


※各ページの番号・タイトルは会議資料と合わせています。

1 乗合事業の収支（令和5年度 路線ごとの営業係数）

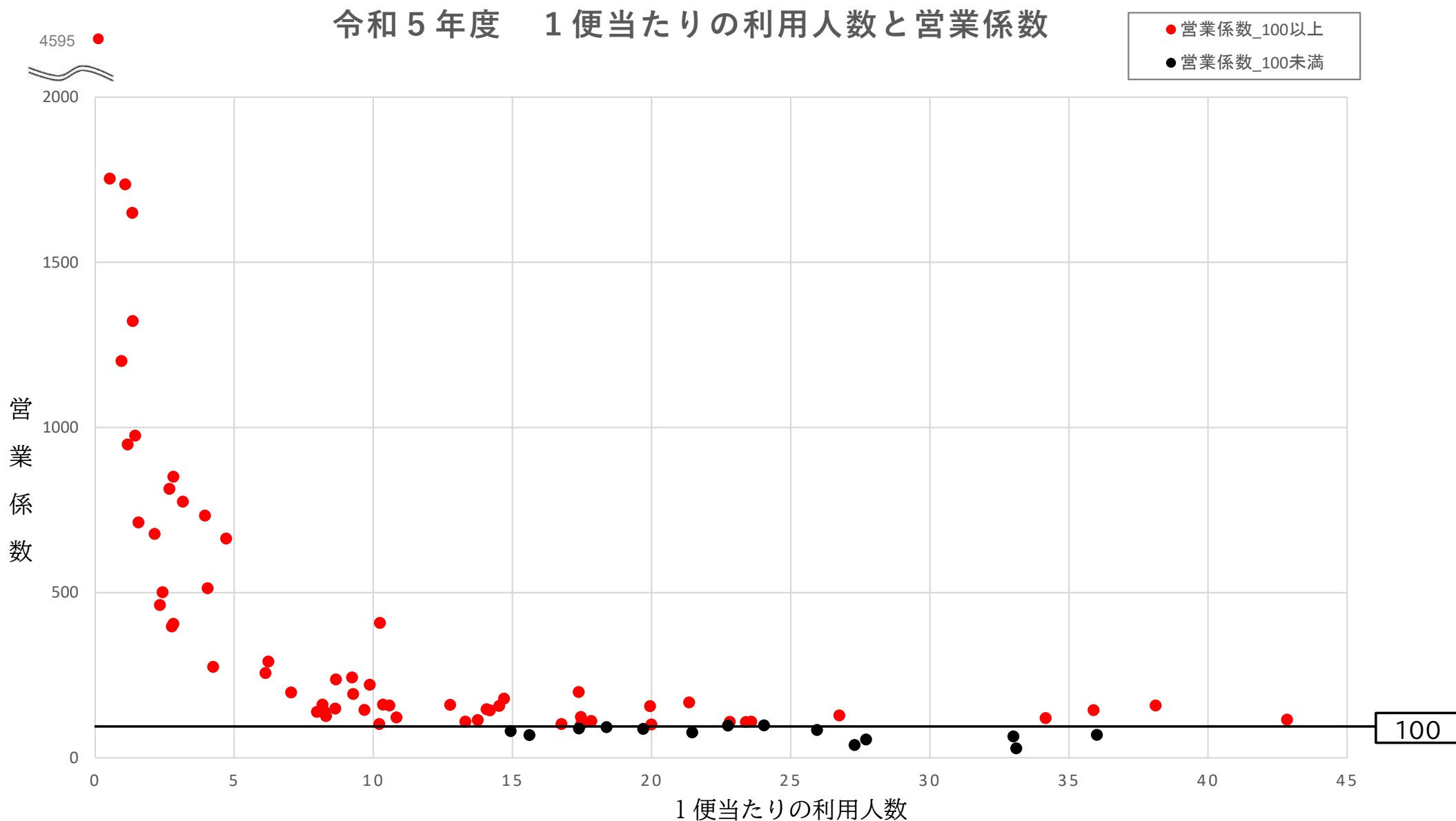
- 黒字の路線は、全31路線中5路線（16.1%）、赤字は26路線（83.9%）
- 平日便数当たりでは、全695便中281便（40%）が黒字、414便（60%）が赤字
- お買い物バスや北西部路線の営業係数が厳しい状況

令和5年度 路線ごとの営業係数



1 乗合事業の収支（令和5年度 系統毎の営業係数・利用人数）

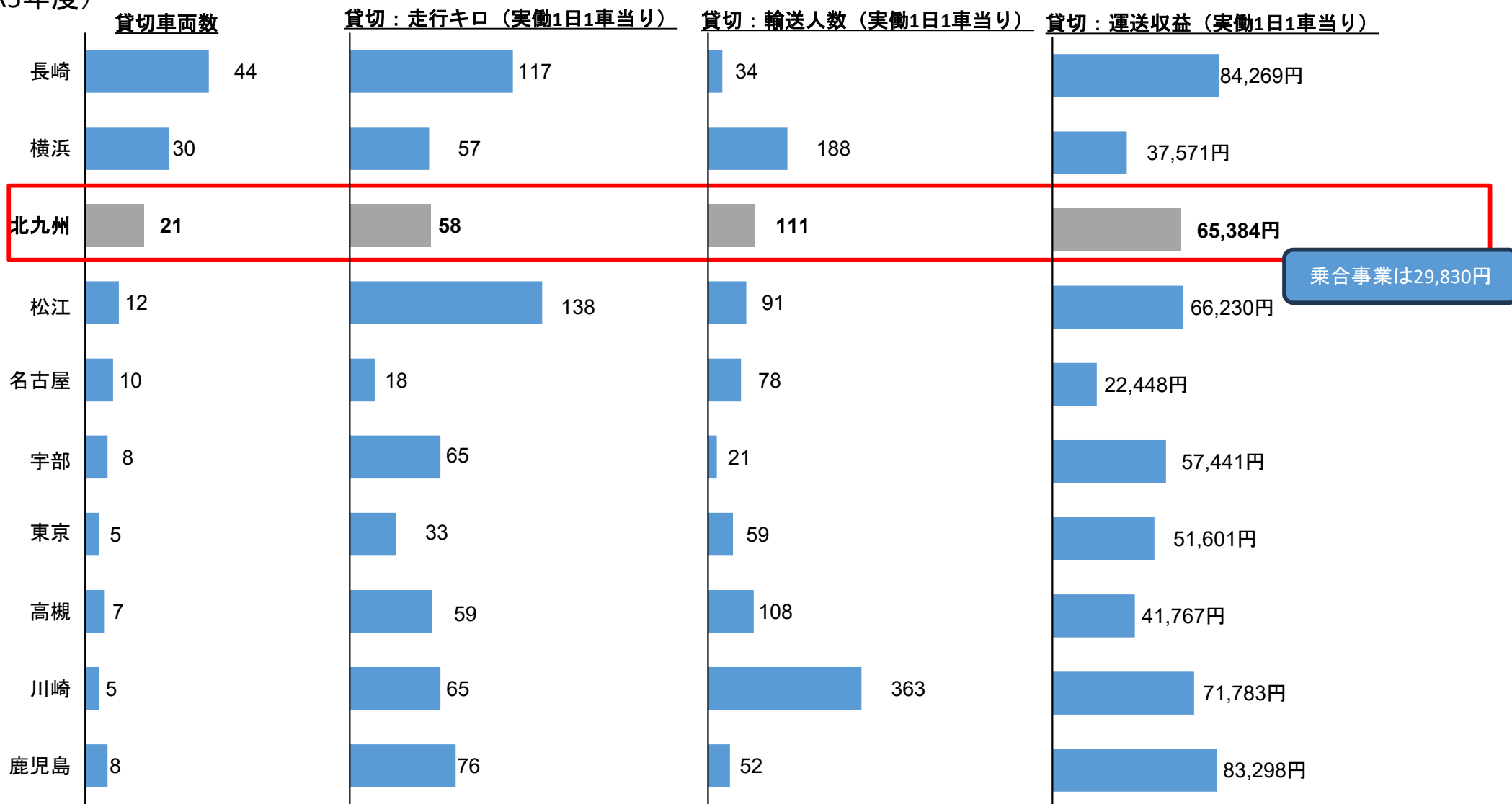
- 令和5年度は、76系統中、黒字は14系統（18.4%）、赤字が62系統（81.6%）
- 1便当たりの利用人数が15人を超えると、営業係数が黒字の路線が出てくる



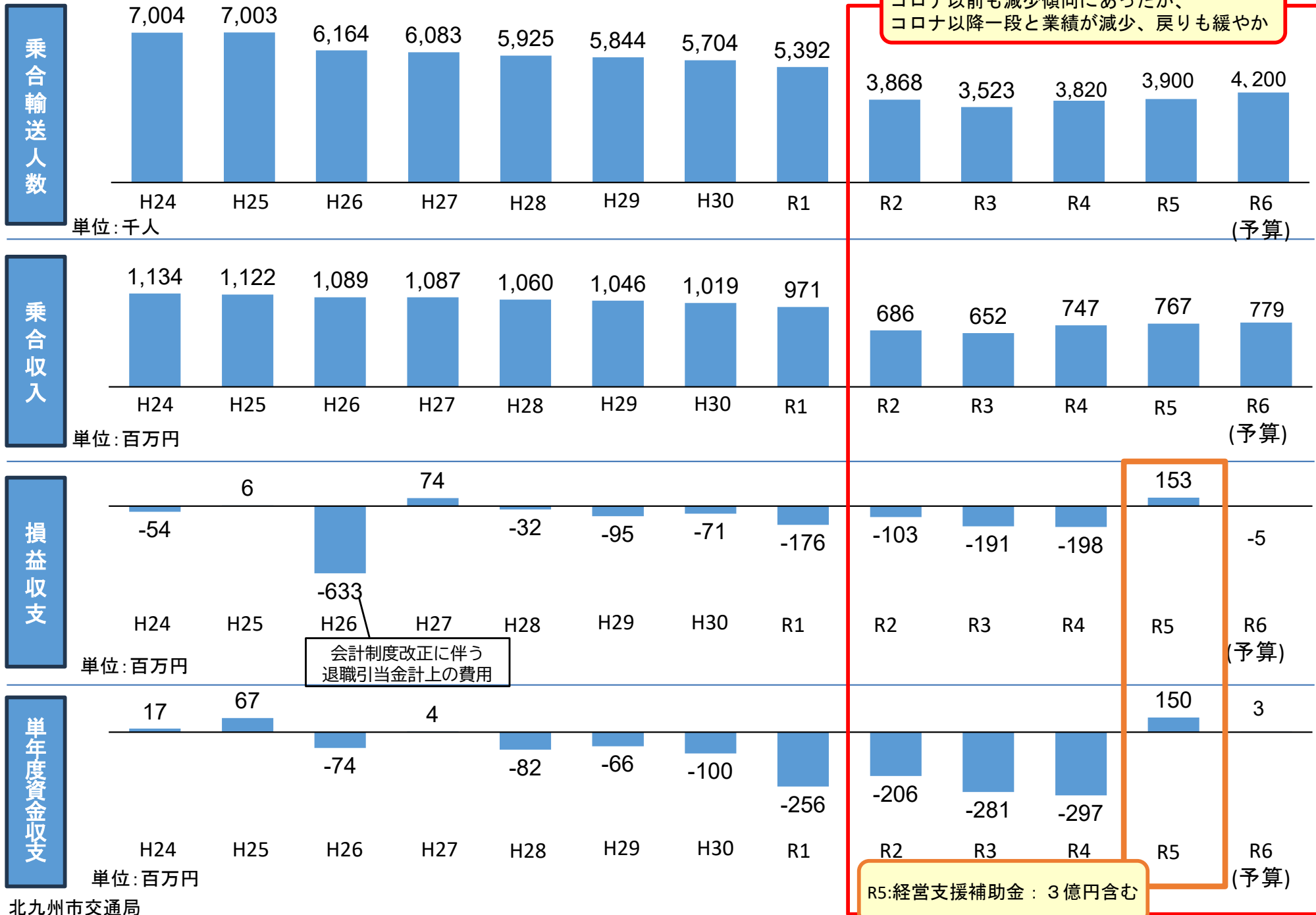
1 現状（ベンチマーキング分析：貸切バスの生産性）

- 運送収益（実働1日1車当たり）を比較すると、貸切バス事業の生産性は、他の公営バス事業者と比較して、高い部類に属する。
- 乗合バス事業と比較しても高い。

（R5年度）

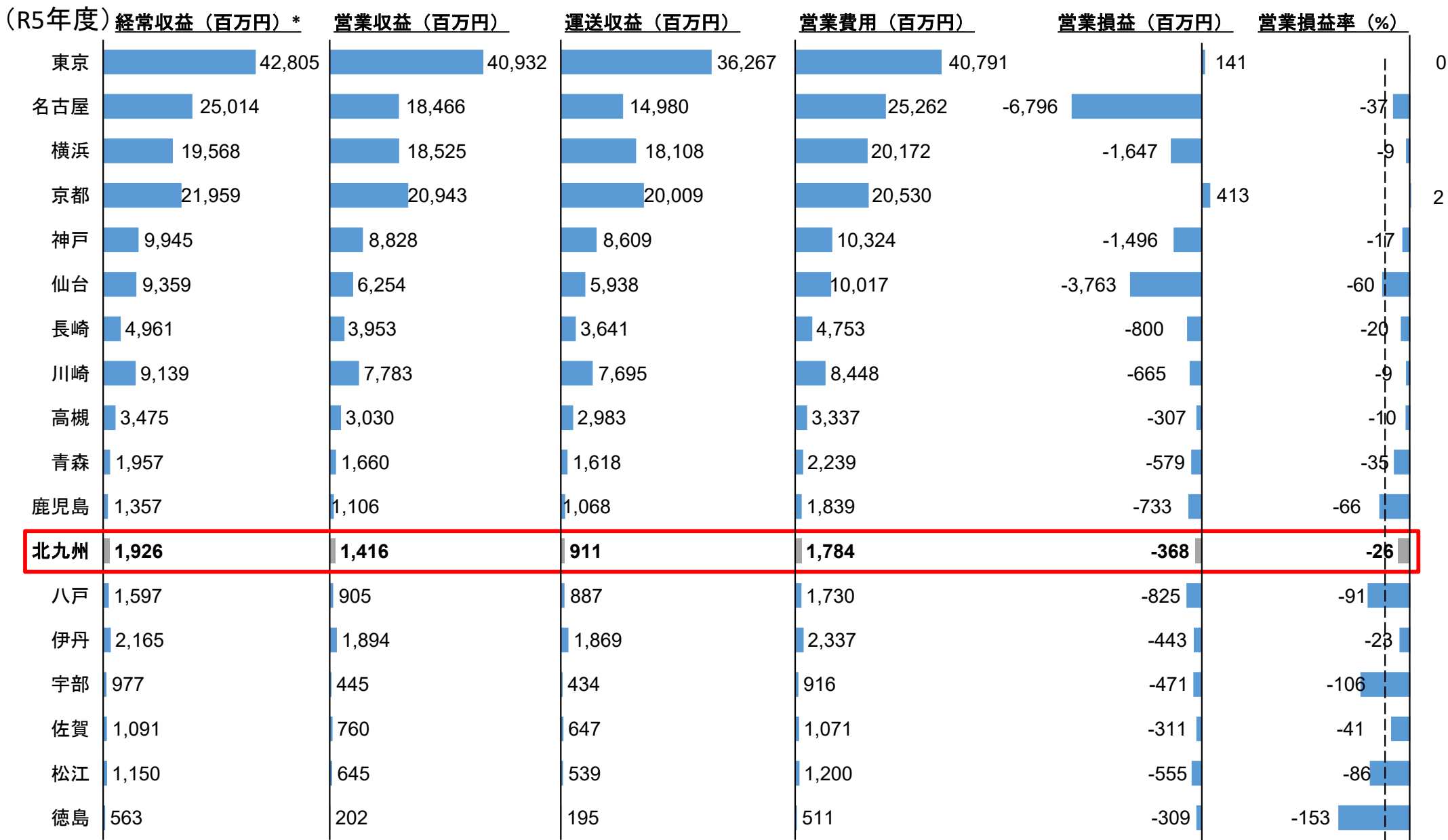


1 現状（ベンチマーキング分析：経年比較）



1 現状（ベンチマーキング分析：収益性）

- ・北九州市は、補助金などの営業外収益への依存度が低いとともに、運送収益以外の営業収益（受託収入）の比率が高い。
- ・営業損益は、他の公営バス事業者と比較すると相対的に赤字の幅が少ない水準（営業損益率平均△44%に対し、北九州市は△26%）



※経常収益：営業収益に加え、補助金など含む

出所：令和3年度公営交通事業決算調（一般社団法人公営交通事業協会）

0/44

1 現状（公営バス事業者の現状）

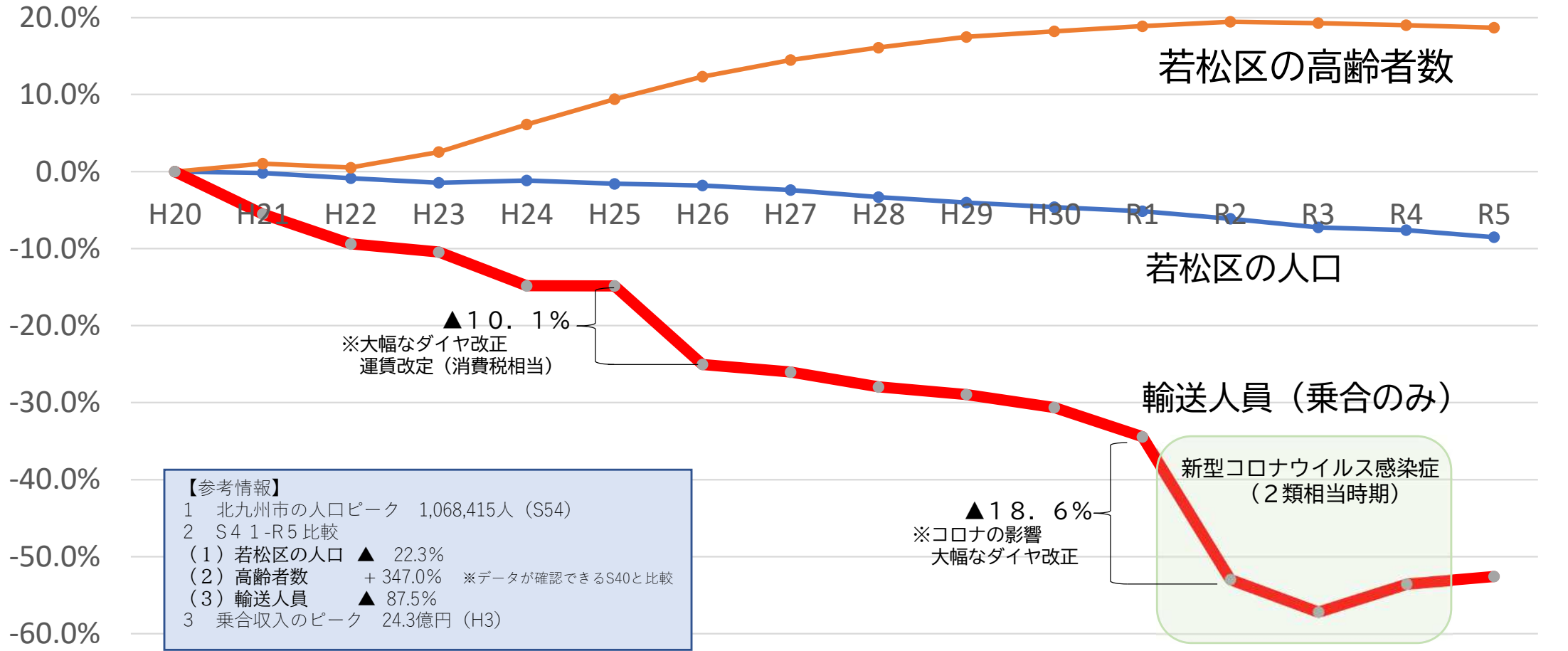
・他の公営バス事業者と比較して、北九州市は、補助金などの他会計繰入金の繰入率が、3番目に低い。

（単位：百万円）【税抜】

区分	都 市 名	乗合			貸切			経常収益 (A)	うち他会計 繰入金等	繰入率		経常費用 (B)	経常損益 (A-B)	バス事業以外の交通事業
		車両数 (両)	走行キロ (千km)	輸送人員 (千人)	車両数 (両)	走行キロ (千km)	輸送人員 (千人)			繰入率	順位			
	北九州市	88	2,387	3,900	21	188	362	1,926	392	20.4%	3	1,800	126	
政令指定都市	仙台市	466	12,706	33,943	—	—	—	9,359	4,403	47.0%	16	10,139	▲ 779	地下鉄
	川崎市	306	11,009	43,715	5	28	157	9,139	2,506	27.4%	8	8,583	555	
	横浜市	790	21,793	111,454	30	424	1,409	19,568	5,889	30.1%	10	20,308	▲ 740	地下鉄
	名古屋市	1,004	35,837	110,375	10	67	284	25,014	11,133	44.5%	15	25,614	▲ 600	地下鉄
	京都市	810	29,771	121,856	—	—	—	21,959	4,170	19.0%	2	20,765	1,194	地下鉄
	神戸市	492	16,229	56,404	—	—	—	9,945	2,687	27.0%	7	10,575	▲ 630	地下鉄
都 県	東京都	1,448	39,033	221,523	5	101	179	42,805	11,845	27.7%	9	41,179	1,626	路面電車、地下鉄、新交通
	長崎県	334	10,420	11,489	44	822	239	4,961	212	4.3%	1	4,778	183	
一 般 市	青森市	139	3,371	6,331	—	—	—	1,957	837	42.8%	14	2,259	▲ 302	
	八戸市	111	3,349	5,146	—	—	—	1,597	809	50.7%	17	1,750	▲ 153	
	高槻市	159	3,971	17,146	7	71	131	3,475	1,169	33.6%	11	3,337	137	
	伊丹市	90	2,474	13,207	—	—	—	2,165	808	37.3%	12	2,337	▲ 172	
	松江市	54	1,851	2,484	12	329	217	1,150	299	26.0%	6	1,216	▲ 65	
	宇部市	62	2,129	1,880	8	44	14	977	373	38.2%	13	922	55	
	徳島市	21	475	1,220	—	—	—	563	363	64.4%	18	515	48	
	佐賀市	73	2,330	3,588	—	—	—	1,091	249	22.8%	4	1,082	9	
	鹿児島市	127	3,343	5,910	8	35	24	1,357	315	23.2%	5	1,862	▲ 505	路面電車

平均 32.6% 出展「令和5年度公営交通事業決算調」（公営交通事業協会）

2 利用者の減少傾向

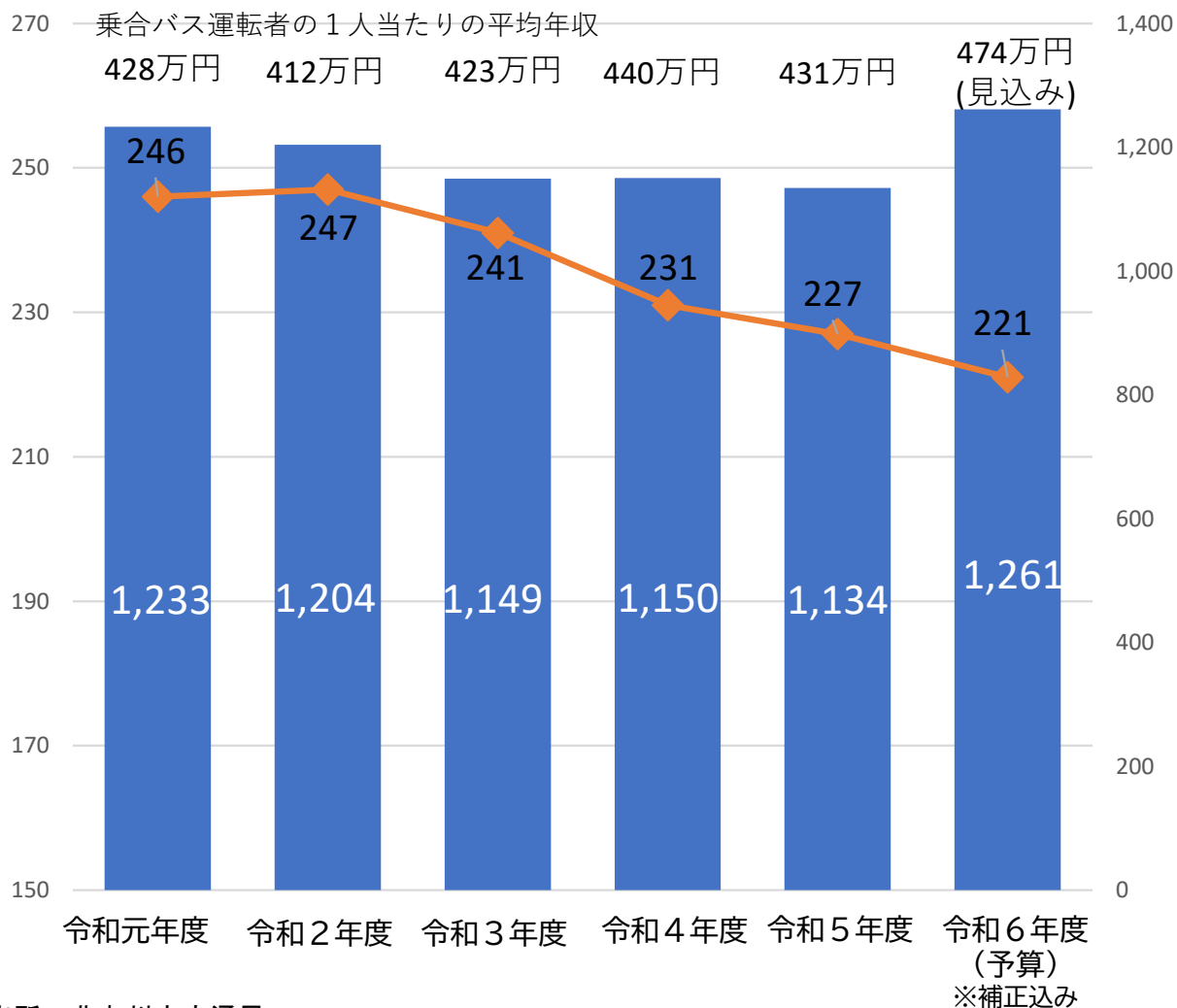


	参 考				H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	S38	S40	S41	H3																
若松区人口	105,901 ※最多	103,656	102,304	88,140	86,869	86,717	86,118	85,604	85,855	85,493	85,297	84,788	83,987	83,365	82,859	82,402	81,547	80,563	80,272	79,481
若松区高齢者数	-	5,909	-	12,344 ※H2参考	22,256	22,483	22,370	22,819	23,615	24,347	25,000	25,479	25,839	26,148	26,309	26,455	26,585	26,546	26,487	26,414
高齢化率	-	5.7%	-	14.0% ※H2参考	25.6%	25.9%	26.0%	26.7%	27.5%	28.5%	29.3%	30.1%	30.8%	31.4%	31.8%	32.1%	32.6%	33.0%	33.0%	33.2%
輸送人員合計（乗合のみ）	29,103,000	30,549,000	31,166,000 ※最多	15,537,000	8,224,242	7,770,777	7,451,551	7,364,199	7,004,122	7,002,868	6,164,469	6,082,705	5,924,826	5,843,590	5,703,714	5,392,140	3,867,907	3,522,501	3,820,084	3,900,360

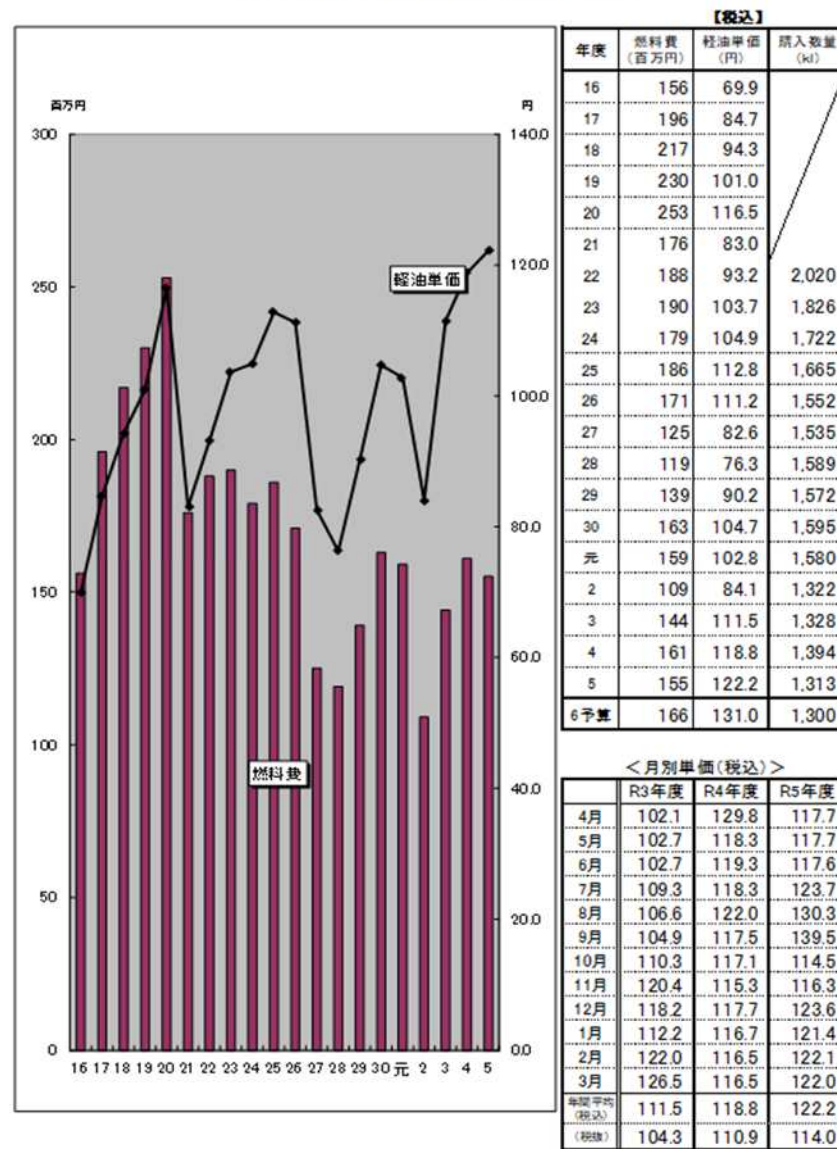
2 運行コスト（人件費、燃料費）

- 職員数は減少する一方で、人件費は横ばい→処遇改善により1人当たりの人件費が上昇→上昇傾向が続く見込み
【令和6年度の処遇改善】①会計年度任用職員に勤勉手当支給、②初任給基準の改正、③給与改定(約1万円程度)
- 燃料費単価も、近年は上昇傾向

職員給与費（百万円）と職員数（人）



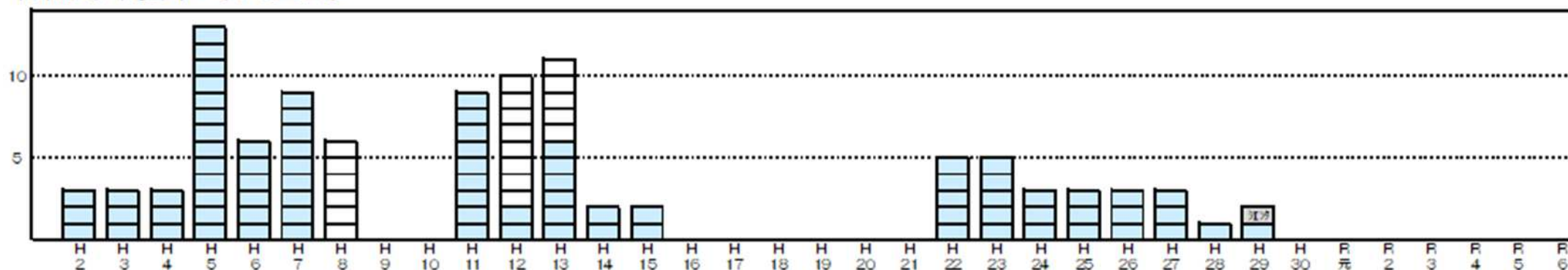
燃料費及び軽油単価の推移(H16～R5)



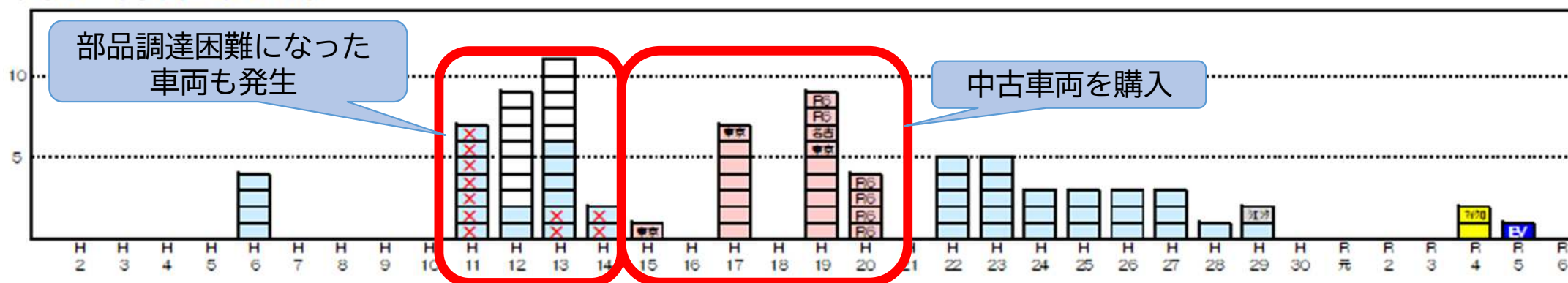
2 運行コスト（バス車両）

- ・令和元年（2019年）からは中古車両を購入（新車購入【大型乗合バス】は、平成29年度が最後）
- ・継続的な車両更新は行っているものの、30年経過した車両が5台あるとともに、部品調達が困難になった車両も発生しており、安全な運行を行っていくためには、継続的な車両更新が必要

令和元年度末（102台）

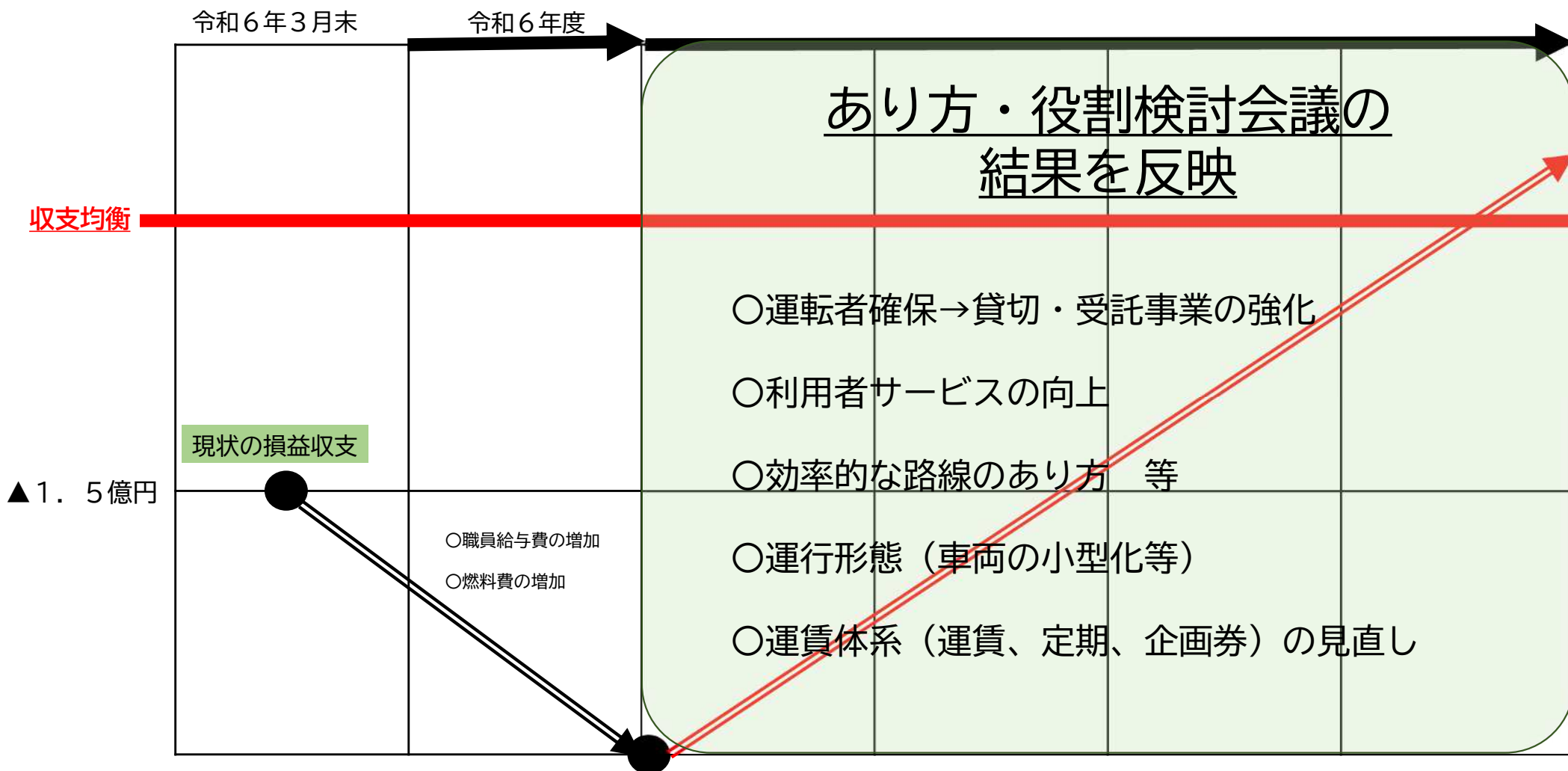


令和6年度末（82台）



2 交通局の経営改善案（イメージ）

・運転者確保による貸切・受託事業の強化や「あり方・役割検討会議」で議論を行う「運賃体系の見直し」や「利用者サービスの向上」、「運行形態（車両の小型化）」、「効率的な路線のあり方」等により、収支均衡を目指す。



2 - (2) 市営バスを取り巻く課題（市営バス事業の財務状況の悪化④）

年 月 日	交 通 局	西 鉄 バ ス
平成4年11月1日	改定率：5.1% 初乗料金：150円⇒160円	
平成6年3月1日		改定率：8.6% 初乗料金：160円⇒170円
平成7年8月16日	改定率：9.4% 初乗料金：160円⇒170円	
平成9年4月1日		消費税率3%⇒5%
平成10年8月1日		改定率：7.8% 初乗料金：170円⇒180円
平成24年4月1日	改定率：10.3% 初乗料金：170円⇒180円	
平成26年4月1日		消費税率5%⇒8%
	改定率：2.9% 初乗料金：180円⇒190円	改定率：2.8% 初乗料金：180円⇒190円
令和1年10月1日		消費税率8%⇒10%
	改定率：1.6% 初乗料金：190円⇒190円	改定率：1.9% 初乗料金：190円⇒200円
令和6年1月20日		改定率：16%程度 初乗料金：200円⇒230円

【交通局】

- ・消費税引き上げを除けば、
平成24年4月1日以降値上げを実施していない。

【西鉄バス北九州】

- ・令和6年1月20日に運賃値上げを実施(約16%)

<値上げ理由>

- 利用者の減少
- 処遇改善
- 安全投資、環境投資
- 燃料費の高止まり

2 運賃改定の状況（他のバス事業者）

- 令和2年度以降、運賃を改定した事業者数は109事業者、大部分は令和5年以降に申請
- 多くの事業者は直近で10～30%の値上げを実施している

令和2年以降に運賃改定申請をした事業者数

	事業者数	申請者数
全国	217社	109社 (50.2%)
一般乗合バス標準原価ブロック北九州 (福岡県、佐賀県、長崎県、大分県)	21社	11社 (52.4%)

参考：令和5年11月時点の申請状況

運輸局	運賃ブロック	事業者名	本省 権限	申請日	認可日	処理状況
九州	北九州	西日本鉄道	○	R5.6.15	R5.10.13	19.88% ↑
		西鉄バス北九州		R5.6.15	R5.10.13	21.20% ↑
		大分バス		R5.10.3		運賃改定率を審査中
		西鉄バス二日市		R5.6.15	R5.10.13	31.13% ↑
		亀の井バス		R5.6.15	R5.10.13	19.51% ↑
	南九州	鹿児島交通	○	R4.3.30	R4.9.9	20.70% ↑
		宮崎交通		R5.7.12	R5.9.13	20.22% ↑
		産交バス		R5.6.16	R5.9.15	10.22% ↑
		南国交通		R5.10.4	R5.11.17	40.03% ↑
		九州産交バス		R5.6.16	R5.9.15	10.19% ↑
		熊本都市バス		R5.6.22	R5.9.15	12.57% ↑
		鹿児島市交通局		R5.6.22	R5.9.8	18.97% ↑
		熊本電気鉄道		R5.6.19	R5.9.15	15.88% ↑
		熊本バス		R5.6.21	R5.9.15	16.77% ↑

出所：国土交通省

2 運賃改定（平成24年4月運賃改定時の状況）

- ・平成24年4月1日運賃改定に伴い、運賃収入は1.0%増収（現金等は▲2.6%だが、1日乗車券や定期券が増収）
- ・輸送人員は、全体で▲4.9%（現金が▲9.3%である一方、1日乗車券は+45%、定期券に大きな増減なし）

運賃収入（単位：千円）

	平成23年度	収入構成	平成24年度	収入構成	令和23年度比		参考 平成25年度	収入構成
					増減額	増減率		
乗合事業	1,122,626		1,133,535		10,909	1.0%	1,122,251	
現金、 電子マネー等	817,235	73%	796,153	70%	-21,083	-2.6%	775,746	69%
1日乗車券等	19,635	2%	28,527	3%	8,892	45.3%	30,901	3%
定期券	285,755	25%	308,855	27%	23,100	8.1%	315,604	28%

輸送人員（単位：人）

	平成23年度	構成	平成24年度	構成	令和23年度比		参考 平成25年度	構成
					増減数	増減率		
乗合事業	7,364,199		7,004,122		-360,077	-4.9%	7,002,868	
現金、 電子マネー等	4,444,459	60%	4,032,849	58%	-411,610	-9.3%	3,928,801	56%
1日乗車券等	113,196	2%	164,152	2%	50,956	45.0%	177,620	3%
定期券	2,806,544	38%	2,807,121	40%	577	0.0%	2,896,447	41%

※参考：平成24年度改定率10.3%、逸走率6.84%（自然逸走率4.3%、運賃改定に伴う逸走率2.54%）

2 参考（運行本数及び系統数の状況）

・運賃改定を行った平成24年4月1日には、全面ダイヤ改正も併せて実施(平日▲129便、土曜▲87便、休日▲45便)

改正日	平日便数	土曜便数	休日便数	系統数	備考
R6.9.1	643	551	370	73	通勤・通学の便に極力配慮しつつ、当面の間
R6.4.1	707	554	370	73	折尾～快速～学研都市 平日の昼間帯12便増便
R5.3.18	695	554	370	73	芦屋特急廃止・黒崎線の見直し、 早朝・深夜便の繰り下げ・繰り上げ
R4.10.01	792	597	382	81	芦屋特急2便減、JR九州時刻改正
R4.4.01	794	597	382	76	転回時間を点検時間・回送時間に切り分け
R3.10.01	794	597	382	76	折尾駅再開発、産医大循環線見直し
R3.8.30	780	597	382	77	外小竹コース・宮前町コース運用開始
R3.7.13	772	597	382	74	畠田コース運用開始
R3.4.26	768	597	382	73	百合野町・大池町コース・内小竹コース運用開始
R3.3.20	763	596	382	69	久岐の浜団地線廃止・系統整理
R2.10.26	834	739	373	97	高塔山コース・石峰山コース運用開始
R2.10.3	818	723	373	93	土曜ダイヤを平日ダイヤ所要時分に見直し
R2.6.1	808	723	373	92	利用者要望による増便
R2.5.25	804	723	373	91	コロナによる影響平日→土曜日ダイヤで運行
R2.3.28	892	723	373	101	休日40%減・10人乗り運用開始・8路線廃止
5年前 R1.10.3	904	723	637	100	黒崎駅北口運用開始
H31.3.30	904	723	637	100	久岐の浜団地線・学研地区新規路線運用開始
H28.9.1	967	760	692	104	北西部 第二・第三路線運用開始
10年前 H26.6.1	994	774	713	100	北西部 第一路線運用開始
H25.4.1	1068	859	782	115	はまゆう団地線廃止・黒崎芦屋急行見直し
H24.4.1	1072	871	792	115	全面ダイヤ改正
H23.4.1	1201	958	837	111	一部ダイヤ改正
15年前 H22.4.3	1244	997	871	112	全面ダイヤ改正

H=平成

R=令和

運行本数
削減の割合
(令和6年4月改正比)

★5年前比

平日：▲22%

土曜：▲23%

日曜：▲42%

★10年前比

平日：▲29%

土曜：▲28%

日曜：▲48%

★15年前

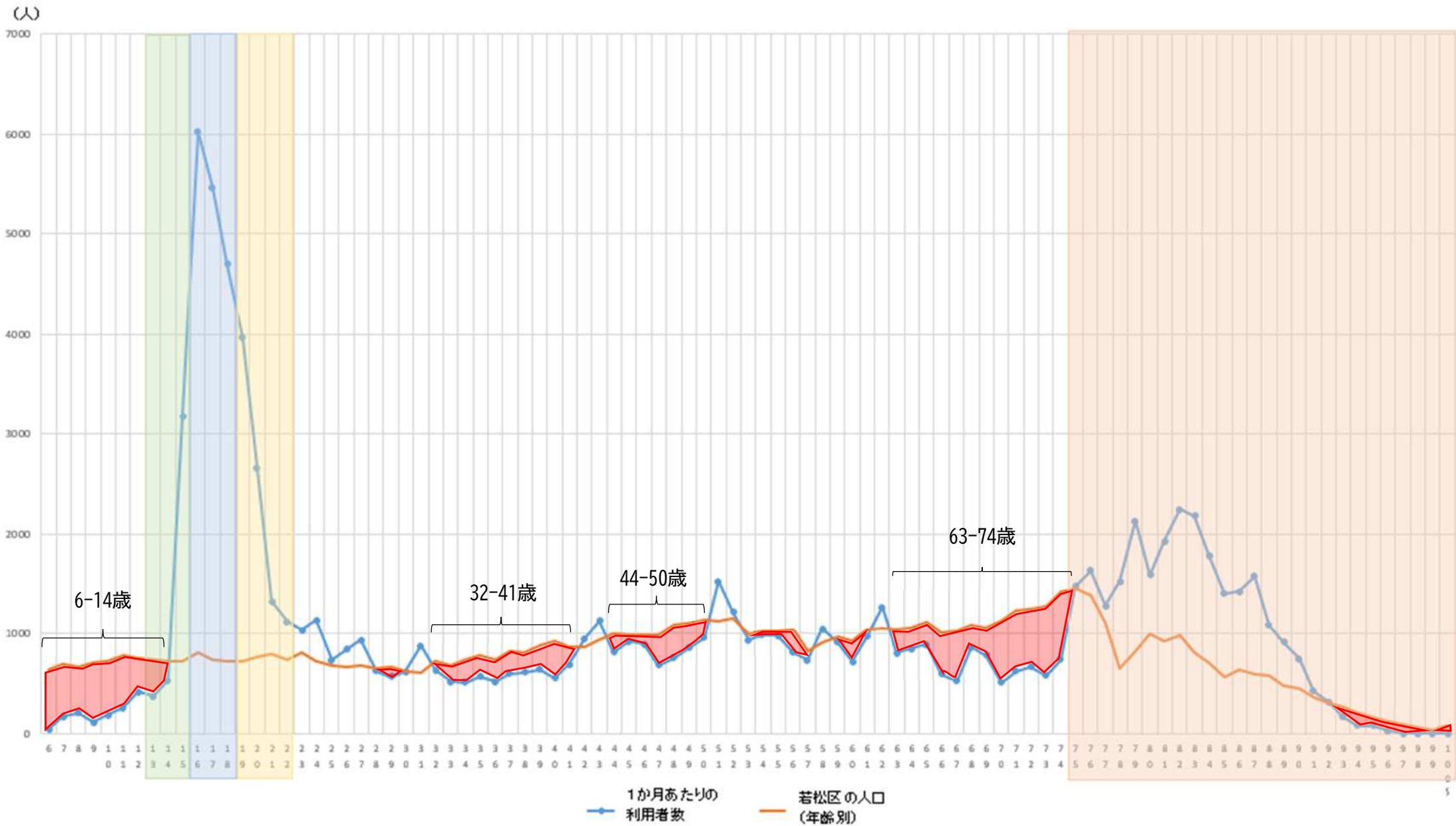
平日：▲43%

土曜：▲44%

日曜：▲58%

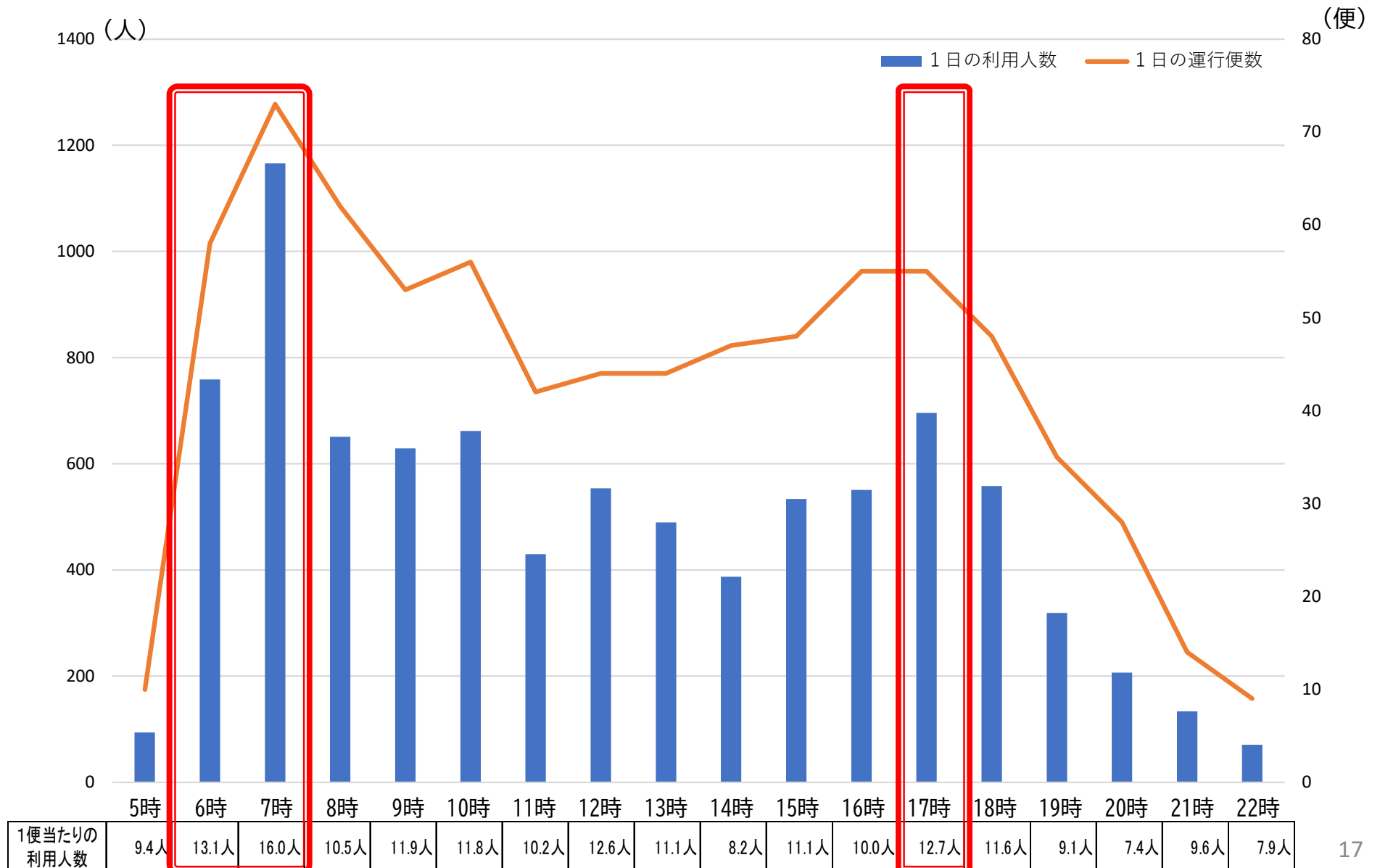
出所：北九州市交通局

3 令和5年度利用者の年齢構成（電子マネー、定期券）



3 令和6年3月（時間帯ごとの運行便数と利用人数）

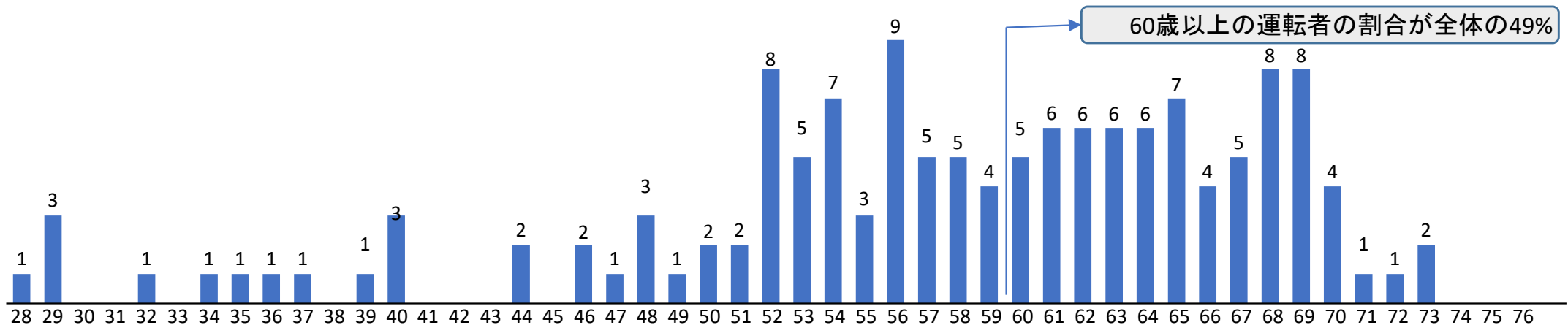
・おおむね朝方、夕方の時間帯の利用が多い。



4 運転者の状況

- 令和元年度に163名いた運転者数が、令和6年4月1日には141人まで減少
- また、運転者の高齢化（平均年齢57.6歳）が進展しており、60歳以上の運転者の割合が全体の49%。
今後の更なる退職者数の増加が見込まれる。
※西鉄バス北九州（60歳以上の割合）：12%【R3年3月時点】

運転者の年齢構成（R6年4月1日、人）



4 運転者不足の状況

- 本市においても、欠員が深刻な状況
- 改善基準の改正により、既存運行本数を維持することも厳しい状況

時点	必要数	在籍数		欠員数
R1.4.1	186	163	年度内採用者数 27 年度内退職者数 ▲25	▲23
R2.4.1	181	165	年度内採用者数 17 年度内退職者数 ▲25	▲16
R3.4.1	166	157	年度内採用者数 8 年度内退職者数 ▲15	▲9
R4.4.1	171	150	年度内採用者数 15 年度内退職者数 ▲16	▲21
R5.4.1	170	149	年度内採用者数 15 年度内退職者数 ▲23	▲21
R6.4.1 (R6.9.1)	171 (158)	141 (148)		▲30 (▲10)

※処遇改善：令和6年4月1日実施

※ダイヤ改正：令和6年9月1日実施